# 『河西先生物語』読み聞かせについて

４月中旬に、６年生が全校のみんなに読み聞かせをしています。

分かりやすく伝えるために、紙芝居で読み聞かせをしています。１年生には河西先生のことを知ってもらい、２～５年生には、改めて命の大切さについて考えてもらうために行っています。

６年生は、「全校のみんなに河西先生の行ったことを知ってもらえてよかった。」「自分には、出来ないことをしている河西先生のすばらしさを、伝えることができてよかった。」「自分より人のことを思う優しい人になってもらいたいという気持ちを込めて、読みました。」と話していました。

河西先生物語

河西先生は、三ヶ日町のお寺で生まれました。子どもの頃、お父さんと死に別れて、お母さんと妹と暮らしました。

小学校、中学校を優秀な成績で卒業し、袋井のお寺で、僧侶(そうりょ)になるための修行をしました。その後、先生になるための学校を卒業し、静岡市や三ヶ日町の小学校に勤め、大正十三年に都田小学校の先生になりました。

昭和二年五月二日、前日からの雨で、都田川の水の量は増していました。都田小では、午前九時三十分に授業をやめ、下校することになりました。

河西先生は、川に近い須部方面の子どもたちに付きそっていきました。先生はズボンを高く折り曲げ、上着をぬいで子どもたちの先頭に立ち、坂を下っていきました。道路の低いところは、もうすでに、川からの水が、ものすごい勢いで道をこえて北側の田んぼに流れ込んでいて、一面がどろ水のようになっていました。

子どもたちは、先生に守られて、激しい雨の中を足下に注意しながら、歩いて行きました。

その時です。河西先生のすぐ後ろについていた六年生の女の子が激しい流れに目がくらんだのか、県道の北側の川に落ちてしまいました。河西先生はすぐに飛びこみ、女の子を左わきにかかえてもどろうとしましたが、水の勢いが強くてもどれません。そこで、反対側の丘の方へ行きましたが、あと少しというところで急に先生の姿が見えなくなりました。これを見た石埜(の)先生は、すぐに飛びこみ、女の子をかかえて、ようやく助け出しました。

女の子を助けた後、石埜(いしの)先生は、河西先生の姿が見あたらないことに気づきました。風や雨は、いまだにやまず、水の勢いは激しさを増していきます。校長先生は、すぐに村長さんに連らくし、消防や先生方全員といっしょにいかだを作り、なわを引いてさがしました。さがし続けて二時間後、ようやく河西先生は川の底で発見されました。そして、人工呼吸を二時間あまり続けましたが、ついに河西先生の命が戻ることは、ありませんでした。

奥さんは、知らせを聞き、はだしのままかけつけ、河西先生の顔を見るやいなや、泣き崩れました。愛する妻、子どもを残し、河西先生は、帰らぬ人になってしまったのです。

河西先生のおそう式は、五月二十六日、都田小学校の校庭で、村中の人が出席して行われました。そう式に出た人は三千人もいたそうです。